

ひろか

だより

第386号

令和6年9月17日

発行



弘果弘前中央青果株式会社

津軽の「うまい」がここにある

りんご部からのお願い

運搬時には
ロープがけを忘れずに
選果は上下差の無いよう
お願いします



弘果早生種りんご競売の様子

が数量5万7千箱(同96.7%)
平均単価378.9円(同112.7%)、津軽りんご市

早生種「つがる」「きおう」

相引き堅調に推移

弘果と津軽りんご市場では8月中旬から、早生種りんごの本格的な入荷が始まりました。今年産の早生種は、気温が高く適度な降雨があったことにより、肥大が良好で熟度も進み、記録的な猛暑となった昨年に比べ、日焼けの影響が少なく順調な入荷となりました。弘果の取扱(9月12日までの累計)は「つがる」が数量25万6千箱(前年比117.2%)、平均単価469.7円(同99.3%)、「きおう」



津軽りんご市場早生種りんご競売の様子

場の取扱(9月12日までの累計)は「つがる」が数量12万8千箱(前年比120.7%)、平均単価441.2円(同97.7%)、「きおう」が数量2万3千箱(同104.5%)、平均単価383.0円(同118.1%)となりました。他県産りんごの出荷量が少ないこともあり引き合いが強くなり、「きおう」は輸出需要から、高単価で推移した昨年と同水準で、全体的に堅調な取引となりました。

これから「トキ」「早生ふじ系」が収穫期を迎えます。「トキ」については海外、特に台湾からの引き合いが強くなり、食味が良くないりんごが流通することは、青森県産りんごの評価を下げ、その後の価格面にも影響を及ぼします。食味良く高品質なりんご生産に向けて「適期摘葉」「適期収穫」に努めましょう。

ハニーゴールドン収穫・出荷

五所川原農林高校



栽培したメロンが高値で取引され、実習を有終の美で飾った生徒達

「つがりあんメロン」「ハニーゴールドン」の栽培実習を実施して、8月29日、収穫選果、箱詰め等、出荷に向けた作業を行いました。この実習は、青森オリジナルメロン生産連絡協議会(渋谷充会長)のメロン栽培後継者育成事業の一環として同校で実施しており、当社農産指導課の指導のもと、5月28日の定植作業から約3ヶ月間の栽培管理を生徒達が行ってきました。作業を終えた同校の工藤弥(みらい)さんは「作業が大変だと思ったことが沢山ありましたが、こうして無事に収穫できてうれしく思います。実習の締めくくりにある明日の弘果での競売に期待しています。」

いる五所川原農林高校生物生産科の1年生24人が8月29日、収穫選果、箱詰め等、出荷に向けた作業を行いました。この実習は、青森オリジナルメロン生産連絡協議会(渋谷充会長)のメロン栽培後継者育成事業の一環として同校で実施しており、当社農産指導課の指導のもと、5月28日の定植作業から約3ヶ月間の栽培管理を生徒達が行ってきました。作業を終えた同校の工藤弥(みらい)さんは「作業が大変だと思ったことが沢山ありましたが、こうして無事に収穫できてうれしく思います。実習の締めくくりにある明日の弘果での競売に期待しています。」

栗こ南瓜収穫 柏木農業高校



収穫した「栗こ南瓜」を手に販売へ期待を込める生徒達

弘果オリジナルブランド「つがりあん栗こ南瓜」の栽培実習を実施している柏木農業高校生物生産科1年生17名が9月2日、収穫作業を行いました。当社農産指導課職員の指導を受け、6月3日の定植から約3か月間、高品質な南瓜を目指して栽培管理を生徒たちが行ってきました。収穫を終えた同校の比内元気さんは「表皮の色、ツル元の状態、大きさ等の収穫基準に照らし合わせると、今日収穫できた量は定植数に対しては少なかつたと思います。今後とも生育状況を見極めての収穫が続きますが、これから行われる販売では「完売」を目指します」と話していました。この後は、風乾を経て、量販店の店頭で販売体験を行う予定です。



弘果オリジナルブランド「つがりあんシャインマスカット」は、高品質を付加価値としてブランド力高め、価格向上に繋げることを目的に、出荷基準等を設けてクリアしたものを商品化しています。出荷時期を目前に控え、当社第1卸売場と木造菰樋集荷場において9月7日、目揃え会が行われました。両会場合わせて約200名の参加者が「つがりあん」として出荷する際の粒や房の大きさ、形状、糖度、色の目安などの基準を確認していました。参加者は「これからの出荷に向けて、今日確認した規格上位を目指し励みます」と意気込みました。果実部では、適時有利販売に向けて、シャインマスカットの貯蔵販売を推奨しております。

目揃え会で基準確認

弘果オリジナルブランド「つがりあんいちじく」は、省力で高収益が見込める作物として「いちじく」に着目し、一大産地化とブランド化を目指し、普及を推進しています。出荷時期を目前に控えた8月24日、当社第1卸売場において、初めての目揃え会を行いました。会場には出荷の基準を確認するため、生産者約30名が参加、農産指導課職員が選果基準を基に、実物を交えて出荷基準を説明しました。

初となる目揃え会で出荷基準を確認する参加者

弘果オリジナルブランド「つがりあんいちじく」は、当社販売担当者は「目揃え会を行い、統一した基準で出荷することで、つがりあんいちじくの更なる品質向上によりブランドの価値を高め『作る』『売る』『買う』それぞれに対して魅力ある品目として、生産・販路の拡大につながると期待しています。」



農業の未来を拓く！新規就農者



三上 あかね
 〔園地所在地〕 板柳町石野
 〔作付状況〕 りんご64ア
 〔就農年〕 2022年
 〔きっかけ〕 りんご農家に生ま

農業に大きな夢と希望を抱いて就農した人にスポットを当て、紹介します。農業の未来を切り拓く就農者を弘果グループは応援します。

れ育ち、学校が休みの日には手伝いをしていました。高校卒業後は宮城県の大学に進学し、建築やデザインを学んでいました。これからの進路を考える際、大学の専攻を活かした仕事に就くことも考えていましたが、心のどこかに生まれ育ったりんご園の原風景があり、「農業をやりたい」という気持ちもありました。そんな中、大学のゼミの一環で、東日本大震災で被災した南三陸町を訪問する機会がありました。その時「いつ何が起きるかわからない、後悔しないように信念に基づいて行動する」という思いに駆られ、農業を志すことを決意しました。大学卒業後は地元板柳町に戻り、家は父が継いでいたので新規就農を目指し、実家や町内のりんご生産者のもとで栽培や農業経営を学ぶ傍ら資金を貯めました。そして、町内で離農する方から園地を購入して独立就農しました。

【現在】自分の手が届く範囲の園地を、責任と愛情をもって栽培から収穫まで一人で行うことが理想です。しかし、理想だけで農業で生計を立てていくことは容易ではありません。理想と現実を考慮し、量を上げるための園地の規模拡大を念頭に、なるべく省力で園地を管理できるシステムを構築していきたいと考えています。また、土づくりがりんご栽培の基礎となることから、試行錯誤して良い土壌を目指して励んでいます。

【夢・展望】おいしいりんごを皆様に届けていくことは勿論、りんごについてももっと知りたいという思いから、SNS等を通じた情報発信を積極的にを行い、今後は岩木山を望む園地のロケーションを活かし、観光的な要素を取り入れた体験型の農業PR等を計画しています。自分一人の力は小さいですが、少しでもりんごや農業に興味を持ってもらうべく活動していきたいと考えています。

【座右の銘】①誠実②謙虚③向上 ①一つひとつの仕事について「誠実」に対応します。②固定観念や自分の考え方に固執せず、他人のよい部分を吸収して、自分のなかにとりいれることで、新しい発見や知見にすることができるよう「謙虚」な姿勢で何事にも取り組めます。③クオリティの高い仕事をするために、自己研鑽を継続することで知識や技術を深め、仕事の成果を「向上」させます。



りんご高密度植モデル園初となる「つがる」の収穫

りんご高密度植栽培モデル園

弘果総合研究開発（葛西憲之社長）は9月2日、弘前市小沢地区に開設した、りんご栽培において作業の効率化、早期多収が期待されているりんご高密度植栽培の経営モデル園で初となる「つがる」の収穫を行いました。

同社では2019年から、津軽地方の9園地でりんご高密度植栽培の実証実験を行ってきました。そして、これまでの試験園地での成果を踏まえ、新規就農者を育成する経営モデル園を開設しました。研修生は同社社員として2年間、りんご高密度植栽培全般の他、シャインマスカット等他品目についても学んでいきます。1人50アールの研修園地が割り当てられ、研修終了後はその園地を有償提供という形で独立を目指しており、現在1期生2名が研修に励んでいます。

令和5年度60アールに11品種1800本、令和6年度140アールに3品種4100本を定植したうち、令和5年度に7アール230本定植した「つがる」が、定植2年目で1本に10個程度の実をつけ初収穫となりました。10アール換算の収量は0.75トとなり、同社は定植3年目で10アール当た



Hiroka R&D Inc.
 弘果総合研究開発(株)
 弘果総研

り5ト、5年目で同5〜6トの収穫を見込んでいます。同日は葛西社長や研修生2人、同社社員が着色を確認しながら収穫しました。葛西社長は「日焼けの発生はほとんどなく、食味も良く、丸葉栽培とそん色のない品質です」と高密度植栽培の優位性を強調していました。また「高密度植の最大の特徴は早期多収です。作業性、生産性についてデータを集めながら「稼げる農業」としてのビジネスモデルを確立し、担い手の確保育成を通じて生産量維持の一翼を担いたい」と意欲的に話していました。

第12回品評会開催

青森オリジナルメロン生産者協議会（渋谷充会長）、同青年部（吉田匡克部長）共催の「つがりあんメロン」第12回品評会が7月5日にアムさんの部、8月2日にアーバンデリシャスの部、8月30日にハニーゴールデンの部が開催されました。

アムさんの部には22点、アーバンデリシャスの部には29点、ハニーゴールデンの部には12点が出品され、それぞれ審

査員4名が厳正に審査を行い、上位入賞者が決定しました。

【アムさんの部】
 金賞 工藤勝彦（津軽丸山園芸団地）
 銀賞 伝法谷雅孝（丸駒生産組合）
 銅賞 藤本清仁（木造縄文出荷組合）

【アーバンデリシャスの部】
 金賞 工藤功樹（まほろば生産組合）
 銀賞 葛西義直（丸新出荷組合）
 銅賞 工藤健誠（まほろば生産組合）

【ハニーゴールデンの部】
 金賞 三浦彰仁（丸新出荷組合）
 銀賞 新岡正基（出来島地区）
 銅賞 葛西修（清水出荷組合）



厳正に行われた審査

創立15周年の節目祝い

弘果岩木地区りんご連絡協議会（美濃又伸悟会長）創立15周年を記念して8月19日、弘前市ラグリーにおいて、会員、関係者約50名が出席し、式典が開催されました。同会は、岩木地区の出荷組合で構成され、「岩木地区の各りんご出荷組合相互の交流を図り、「岩木りんご」のブランドを確立し、地域の発展と所得の向上を図る」ことを目的に設立されました。現在は23組合が活動を行っています。式典では美濃又伸悟会長が「多くの先輩方が築いてきた『岩木りんご』のブランドを更に発展させるべく、弘果との綿密な情報交換は基となり、生産技術の向上をはじめ、後継者育成に活動等積極的な取り組み等、地域全体のりんご産業活性化に努めます」と挨拶。その後、貢献組合への感謝状贈呈、記念品の岩木山がデザインされた前掛けが披露され、節目の年を祝いました。

弘果岩木地区りんご連絡協議会



岩木山がデザインされた記念品を披露

りんご集荷場営業時間のお知らせ

津軽市場 【期間】 11月27日まで 【休み】 休市日の前日 【時間】 午前9時～午後6時 五所川原集荷場 080-6051-5242 【時間】 午前10時～午後6時 鶴田集荷場 080-5744-5050 鱒ヶ沢集荷場 080-5744-5048	弘果 【期間】 11月29日まで 【時間】 午前10時～午後6時 【休み】 休市日の前日 小沢集荷場 090-7529-3736 目屋集荷場 070-2022-1905 岩木集荷場 090-1398-1415 浪岡集荷場 080-1833-1461	秋田県北集荷場 080-5849-9648 秋田県鹿角市十和田錦木 山谷1-8 【期間】 10/11(金)～11/21(木) 【時間】 午後1時～午後6時 大鰐集荷場 080-3149-3657 十面沢集荷場 080-4411-8759 平賀集荷場 080-5224-7684 鬼沢集荷場 090-2988-2855
--	--	---

トレサビセンターよりお知らせ

【お問合せ】 ☎0172(29)4184
 詳細は次の通りです。
 【場所】 弘果及び津軽市場トレサビセンター
 【時間】 8時～17時
 事前にご記入の上、書類を一式持参して下さい。

トレサビセンター 混雑状況配信します!!

配信期間 8月19日～9月30日まで
 弘果・津軽市場両トレサビセンターの混雑状況を弘果総合研究開発(株)のHPで公開します。

トレサビセンターへ来場する際に活用下さい。
 混雑状況緩和の為、WEB登録も活用ください。

Web登録はこちら



Web配信はこちら



出荷時には、品種カード・収穫カードを必ず荷受係へ提出くださるようお願いいたします。